

WHO news April 2022

2022年4月4日

[WHO releases 10-year strategy for genomic surveillance of pathogens](#)

WHO is releasing a strategy to strengthen and scale up genomic surveillance around the world.

Historically, few countries have routinely done genomic surveillance in-country, a technology considered complicated and expensive. But COVID-19 changed that.

Genomic surveillance is the process of constantly monitoring pathogens and analyzing their genetic similarities and differences. It helps researchers, epidemiologists and public health officials to monitor the evolution of infectious diseases agents, alert on the spread of pathogens, and develop counter measures like vaccines.

WHO、病原体のゲノムサーベイランスに関する 10 年戦略を発表

WHO は、『パンデミックおよびエピデミックの可能性を持つ病原体のためのグローバルゲノムサーベイランス戦略 2022 - 2032』を発表しました。

ゲノムサーベイランスとは、常に病原体を監視し、その遺伝的類似性と相違性を分析するプロセスで、研究者、疫学者、公衆衛生担当者が感染症病原体の進化を監視し、病原体の拡散を警戒し、ワクチンなどの対抗策を開発するのに役立つものです。

テドロス事務局長は「ゲノミクスは複雑で、人的資源の必要性など、各国さまざまな環境下で能力を持続させることが難しいため、ほとんどの国が自力でこれらの能力を開発することはできません。この世界戦略は、私たちの目を周囲の国々にも向けさせ、行動のための統一された枠組みを提供しようとするものです。WHO は、この重要で非常にダイナミックな分野で、各国やパートナーと協力していくことを楽しみにしています」と、述べています。

2022年4月4日

[WHO urges quality care for women and newborns in critical first weeks after childbirth](#)

The World Health Organization (WHO) today launched its first ever [global guidelines to support women and newborns in the postnatal period](#) – the first six weeks after birth. This is a critical time for ensuring newborn and maternal survival and for supporting healthy development of the baby as well as the mother's overall mental and physical recovery and wellbeing.

WHO、産後の重要な時期に女性と新生児に質の高いケアを行うよう要請

WHO は、産後 6 週間の女性と新生児を支援するための世界初のガイドラインを発表しました。この 6 週間は、新生児と母親の生存を確保し、赤ちゃんの健康的な発育と母親の心身の回復と健

康をサポートするために重要な期間です。

世界では現在、10人に3人以上の女性と赤ちゃんが、産後数日間（母子死亡が最も多い時期）の産後ケアを受けていません。一方、出産に伴う身体的・精神的な影響（出産時外傷から再発する痛みやその精神的トラウマ）は、適切に管理されないと増悪してしまいますが、適切な時期に適切なケアを行えば、多くの場合、回復可能です。

出産後の最初の数週間は、当面の健康上の懸念に対処するだけでなく、人間関係を築き、長期的な乳幼児の発達と健康に影響を与える行動を確立するために極めて重要です。本ガイドラインには、母乳育児が確立されるまでの愛着とポジショニングを支援するための母乳育児カウンセリングの推奨と、新生児に対応したケアを行う両親をサポートするための推奨が含まれています。

2022年4月4日

[WHO Director-General's opening remarks at the WHO press conference – 30 March 2022](#)

Periodic spikes in cases and deaths may occur as immunity wanes, which may require periodic boosting for vulnerable populations.

In the best-case scenario, we may see less severe variants emerge, and boosters or new formulations of vaccines won't be necessary.

In the worst-case scenario, a more virulent and highly transmissible variant emerges. Against this new threat, people's protection against severe disease and death, either from prior vaccination or infection, will wane rapidly.

COVID-19のための戦略的準備、対応計画を発表

WHOはCOVID-19のための戦略的準備、対応計画の更新を発表しました。

これはCOVID-19への3回目の戦略計画であり、最後になる可能性があります。

この計画では、今年のパンデミックの展開について、3つのシナリオを描いています。

1. 最も可能性の高いシナリオは、ウイルスは進化を続けるが、ワクチン接種や感染による免疫力の強化に伴い、引き起こす病気の重症度は時間とともに減弱する。
2. 最良のシナリオでは、より重症度の低い亜種（変異種）が出現し、ブースター（追加接種）や新しい処方薬のワクチンは必要なくなる。
3. 最悪のシナリオは、より毒性が強く、感染力の強い変異型が出現し、この新たな脅威に対して、事前のワクチン接種や感染による人々の免疫防御力は急速に低下し、重症化や死亡例が増えていく。

今年中にパンデミックを終息させるには、各国が5つの中核的な要素に対応・投資することが必要です。

1. サーベイランス、研究所、公衆衛生情報の発信
2. ワクチン接種、公衆衛生および社会的対策、そしてコミュニティの関与
3. COVID-19のための臨床ケア、そして弾力的な医療システム
4. 研究開発、そして機材や試薬などへの公平なアクセス

5. 緊急モードから長期的な呼吸器疾患の管理へと移行する際の社会や保健医療システムの調整

2022年4月6日

[Parliaments promote women's, children's and adolescents' health in the time of COVID-19](#)

Parliamentarians chose to shine a bright light on the importance of health equity at the opening day of the recent [144th Assembly of the Inter-Parliamentary \(IPU\)](#), with a particular focus on the promotion of women's, children's and adolescents' health.

Some 110 national parliaments gathered in Nusa Dua, Indonesia, where a frank discussion took place at the 33rd session of the [Forum of Women Parliamentarians](#) about the impact of COVID-19 on health, including on sexual and reproductive health and rights.

列国議会同盟 IPU、女性、子ども、青少年の健康増進について議論

第 144 回列国議会同盟 (IPU) 総会では、その初日に「特に女性、子ども、青少年の健康増進に焦点を当て、健康の公平性の重要性に明るい光を当てること」を採択しました。

インドネシアのヌサドゥアには約 110 カ国の国会議員代表が集まり、その分科会の第 33 回女性議員フォーラムでは、COVID-19 が性と生殖に関する健康や権利など健康に与える影響について率直な議論が行われました。

WHO によると、3 分の 1 の国々が、産前・産後ケアサービス、安全な中絶サービスなどの必須保健サービスの中断がいまだに継続しており、また、4 割近くが家族計画や避妊のサービスに支障をきたしていると報告しています。

IPU は、国会議員の自国におけるセクシュアル・リプロダクティブ・ヘルス問題への理解とアドボカシーを向上させてきた長い歴史を持っています。

会期中、各議員たちはセクシュアル・リプロダクティブ・ヘルスを支持する強い声明を出し、これらのサービスを強化するために自国内で COVID-19 と同じ脈絡で効果的な行動をすることを共有しました。

2022年4月6日

[WHO's training for caregivers of children with autism goes online](#)

In the lead-up to World Autism Awareness Day on 2 April, WHO is releasing an online version of its training programme for caregivers of children with developmental delays or disabilities, including autism. The programme, which has already been piloted in face-to-face format in more than 30 countries, such as Brazil, India, Italy and Kenya, teaches parents and other caregivers day-to-day skills that help boost the well-being and development of children with autism and other developmental disabilities.

自閉症児の介護者向けトレーニングをオンライン化

4月2日は世界自閉症啓発デーです。この日、WHOは自閉症を含む発達の違いや障害を持つ子どもの介護者のためのトレーニングプログラムのオンライン版を公開しました。

このプログラムは、すでに30カ国以上で対面式で試験的に実施されており、両親やその他の介護者が、自閉症やその他の発達障害を持つ子どもの幸福と発達を促進するための日々のスキル（技術）を学ぶことができます。

このオンライン研修では、「日常生活を子どもの学びの場とする」「遊びを通して子どもと関わる」「問題解決を図る」などのテーマで、事前に録音された情報セッションが用意されています。また、保育者自身の健康増進を支援するセッションも、このコースの重要な特徴のひとつです。そのほか、ビデオやクイズ、リマインダーなど、継続的な学習ができるような工夫がされています。保育者が自分のペースで学習できるように、また、自分のスケジュールに合わせた学習ができるように設定されています。

このプログラムは、非政府組織 Autism Speaks の協力を得て開発されたものです。

2022年4月6日

[WHO Guidelines for malaria](#)

The *WHO Guidelines for malaria* bring together the Organization's most up-to-date recommendations for malaria in one user-friendly and easy-to-navigate [online platform](#).

マラリア・ガイドライン

WHO マラリア・ガイドラインは、マラリアに関する WHO の最新の勧告を、使いやすく、閲覧しやすい「オンライン・プラットフォーム」にまとめたものです。

このガイドラインは、これまで WHO が発行してきたマラリア治療ガイドライン第3版とマラリア媒介蚊防除ガイドラインの2つの出版物をまとめ、刷新するものです。マラリアに関するレコメンデーション（勧告）は、今後も継続的に見直され、必要な最新のエビデンスに基づいて更新され、最新の改訂日が常に MAGICapp プラットフォーム上に表示されます。

2022年4月7日

[Billions of people still breathe unhealthy air: new WHO data](#)

Almost the entire global population (99%) breathes air that exceeds WHO air quality limits, and threatens their health. A record number of over 6000 cities in 117 countries are now monitoring air quality, but the people living in them are still breathing unhealthy levels of fine particulate matter and nitrogen dioxide, with people in low and middle-income countries suffering the highest exposures.

何十億人もの人々が不健康な空気を吸っている：WHOの新しいデータ

世界のほぼ全人口（99%）がWHOの大気質基準値を超える空気を吸っており、健康を脅かしています。

WHOの大気質データベース 2022年版では、二酸化窒素（NO₂）の年平均濃度の地上測定値を初めて導入しました。

このデータベースは、世界の大気の状態を監視し、SDGsの進捗を追跡することを目的とし、NO₂（酸化窒素）や直径 10 μm 以下の微細粒子状物質（fine particulate matter: PM₁₀）または 2.5 μm 以下の粒子状物質（PM_{2.5}）の測定値も含まれています。これらの汚染物質は、主に化石燃料の燃焼に関連する人間活動に由来しています。

PM_{2.5}は、肺の奥深くまで浸透して血液中に入り込み、心臓血管、脳血管（脳卒中）、呼吸器に影響を与える可能性があります。NO₂は呼吸器疾患、特に喘息と関連しており、呼吸器症状（咳、喘ぎ、呼吸困難など）、救急外来への受診や入院につながります。

WHOは、毎年世界中で 1,300 万人以上が回避可能な環境要因によって死亡していると推定しています。

大気汚染による害を示す証拠は急速に増えており、昨年、WHOは大気質ガイドラインを改訂し、特にPMとNO₂についてより厳しいものとなりました。

2022年4月7日

[Health and the environment](#)

It's time we take more responsibility for how our actions exacerbate human health and environmental problems! On World Health Day 2022 Viber supports WHO to focus global attention on urgent actions needed to keep humans and the planet healthy through the [“Our planet, our health”](#) campaign. The new WHO [Health for Life sticker pack](#) released today on Viber Sticker Market highlights sustainable living, self-care, water intake, healthy eating habits and more.

楽天 Viber、世界保健デーキャンペーンで WHO を支援

メッセージングアプリの Viber は「人類と地球の健康を維持するために必要な緊急のアクション」に世界の注目を集めるため、世界保健デー「Our planet, our health キャンペーン」において WHO を支援します。

Viber Sticker Market でリリースされた新しい WHO Health for Life ステッカーパック（自分たちの意見やキャッチコピーをスタンプやステッカーのような表現媒体などにして集めたデジタル・ツール）は、持続可能な生活、セルフケア、水の摂取、健康的な食習慣などに焦点を当てたものです。

Viber は WHO と提携し、自社のプラットフォームで、魅力的でわかりやすい方法で環境を保護することの重要性とそれが私たちの全体的な健康とウェルビーイングにどのように関係しているかについて、ユーザーへの教育を支援します。

2022年4月7日

[Launch of the Global Arbovirus Initiative](#)

Arthropod-Borne viruses (Arboviruses) such as Dengue, Yellow fever, Chikungunya and Zika viruses are all current public health threats in tropical and sub-tropical areas where

approximately 3.9 billion people live. The frequency and magnitude of outbreaks of these arboviruses, particularly those transmitted by *Aedes* mosquitoes, are increasing globally, fueled by the convergence of ecologic, economic, and social factors.

The Global Arbovirus Initiative is an integrated strategic plan to tackle emerging and re-emerging arboviruses with epidemic and pandemic potential focusing on monitoring risk, pandemic prevention, preparedness, detection and response, and building a coalition of partners.

グローバル・アルボウイルス・イニシアチブ立上げ

WHO は、「グローバル・アルボウイルス・イニシアチブ Global Arbovirus Initiative (GAI) 」を立ち上げました。

デング熱、黄熱病、チクングニア、ジカウイルスなどの節足動物が媒介するウイルス（アルボウイルス）は、現在、約 39 億人が暮らす熱帯・亜熱帯地域において公衆衛生の脅威となっています。このイニシアチブは、リスクのモニタリング、パンデミック予防、準備、検出、対応、パートナーとの連携に焦点を当てた、エピデミック・パンデミックの可能性を持つ新興・再興アルボウイルスに取り組むための統合戦略計画です。また、このイニシアチブは、世界保健緊急事態計画、顧みられない熱帯病対策部、予防接種・ワクチン・生物学部の共同作業で成り立っています。

(注) アルボウイルス：節足動物媒介ウイルス Arbovirus

(注) イニシアチブ：その状況に応じてとっさに働く鋭い知恵。ウイット。戦略、初動

2022 年 4 月 11 日

[World Chagas Disease Day 2022](#)

In 2022 we are shining a spotlight on [Chagas disease](#), the suffering it causes and are calling for equitable access to health care and services for everyone affected by the disease. The theme for 2022 is **finding and reporting every case to defeat chagas disease**. In many countries, there are low detection rates (<10%, frequently <1%) and frequent barriers to access adequate healthcare.

世界シャーガス病デー2022

WHO は、シャーガス病（※）とそれが引き起こす苦しみにスポットライトを当て、この病気の影響を受けているすべての人が医療とサービスを公平に受けられるよう呼びかけています。

※ シャーガス病：クルーズトリパノソーマ *Trypanosoma cruzi* という原虫による感染症で、サシガメ(アサシンバグ；サシガメ類の昆虫)に刺咬されることで感染する。原虫は刺された傷や眼の周囲の組織から体内に侵入し、侵入部位(刺された傷または眼)の周りが腫れたり、発熱がみられたりすることがある。その後、無症状の期間が長く続いた後に、何年も経過してから重篤な合併症、特に心臓や消化器の障害が発生することがある。シャーガス病は、ラテンアメリカ大陸の貧しい人々の間で流行していて、他の国や大陸でも発見されることが多くなってきている。感染者の大半は無症状か極めて軽い症状であることから、しばしば「沈黙の病」とも呼ばれ、シャーガス病の感染者は世界で年間約 600 万～700 万人、死亡者は約 1 万人と推定されている)

2022 年のテーマは、シャーガス病を撲滅するために、すべての症例を発見し報告することです。多くの国では、発見率が低く(10%未滿、頻繁に1%未滿)、このことが十分な医療を受け

るための大きな障壁となっています。

2022年4月11日

[WHO announces updates on new TB antigen-based skin tests for the diagnosis of TB infection](#)

Tuberculosis antigen-based skin tests (TBST), a new class of tests to diagnose TB infection, have been evaluated by the World Health Organization (WHO) and are found to be accurate, acceptable, feasible and cost-effective. These tests represent an alternative to tuberculin skin test (TST) and Interferon-Gamma Release Assays (IGRAs).

WHO estimates that over a quarter of the world's population has TB infection. Testing for TB infection increases the probability that individuals at higher risk benefit from preventive treatment. TBST use *Mycobacterium tuberculosis* complex specific antigens and represent a significant advancement to TST which has been used for over half a century.

WHO：結核感染診断のための新しい結核抗原を用いた皮膚テストに関する最新情報を発表

WHOは、世界人口の4分の1以上が結核に感染していると推定しています。結核の検査をすることで、リスクの高い人が予防的な治療を受けられる可能性が高まります。

結核抗原を用いた皮膚テスト (TBST) は、結核感染を診断するための新しいクラスのテストであり、WHOによって評価され、正確性、許容性、実行可能性、費用対効果があることが証明されています。

これらの検査は、ツベルクリン反応検査 (TST) やインターフェロン - ガンマ放出測定法 (IGRA) に代わるものです。

今回の情報は、2022年後半に予定されているWHOガイドラインの更新に先立ち「各国の結核プログラムやその他の関係者にこれらの新しい動きを知らせ、国レベルでの迅速な移行と計画を可能にするため」に発表されました。

2022年4月11日

[Primary health care: health systems, communities and the planet](#)

Our planet and our health are inextricably interlinked. The air we breathe, the food we eat, the resources that we consume for livelihoods, shelter, healing and recreation all determine our quality of life and well-being.

プライマリーヘルスケア：医療システム、コミュニティ、そして地球

私たちの地球と健康は、切っても切れない関係にあります。私たちが呼吸する空気、食べるもの、生活、住居、癒し、レクリエーションのために消費する資源、これらすべてが私たちの生活の

質とウエルビーイングを決定します。私たちの存在は、地球の恩恵（地球が提供する資源とサービス）に依存していますが、私たちはそれらを使い果たす危険な状態にあります。持続不可能な生産と消費の結果、私たちの環境のバランスは崩れています。気候変動、より頻繁で激しい自然災害、生物多様性の損失、環境汚染などはすべて、自らを守る能力が最も低い人々に不釣り合いな影響を与えています。健康への影響という点では、これらの悪影響は、外傷、栄養失調、デング熱などの媒介性疾患に加え、喘息、慢性呼吸器疾患、脳卒中、心臓発作など非感染性疾患の発生率をも増加させます。

各国は、健康に対する人権を守り社会正義を推進し、個人とそのコミュニティ（社会）に力を与え、健康の決定要因に対処する人間中心の弾力的で持続可能な保健システムを構築することによって、ユニバーサル・ヘルス・カバレッジ（地球上の人々の普遍的で良好な健康状態構築）を達成することを宣言しています。

このアプローチは「プライマリーヘルスケア」として知られています。これは、必要不可欠な保健サービスを人々の生活環境に近づけるだけでなく、家庭やコミュニティにおける健康リテラシー（認識）を高め、人々が自らの健康を管理するために必要な知識や手段を提供するものです。このアプローチでは、地域社会と彼らのニーズ（必要性）や好みを中心としたシステムとを結びつけ、水や衛生の問題、汚染など、健康やウエルビーイングに影響を与える要因に対策を施します。

COVID-19をはじめとする疾病の大流行、人為的に起きた気候変動や紛争などかつてないほどの困難に直面する中、世界各国はプライマリー・ヘルスケアの原則を用いて保健システムの強化に取り組んできました。

WHOによる、現場からもたらされた一連の継続的な教訓と経験の記述（報告）は、このアプローチが、生態系の限界を破ることなく、人々にとって最も重要なものに焦点を当てた持続可能な社会を作るための行動の一部として、保健システムやコミュニティを確実に組み入れるための強力な方法となることを示しています。

2022年4月11日

[WHO urges accelerated action to protect human health and combat the climate crisis at a time of heightened conflict and fragility](#)

On this World Health Day (April 7, 2022), WHO is issuing an urgent call for accelerated action by leaders and all people to preserve and protect health and mitigate the climate crisis as part of an “Our planet, our health” campaign marking the organization’s founding day, which falls at a time of heightened conflict and fragility.

WHO、人々の健康を守り、気候危機と闘うための行動の加速を呼びかけ

世界保健デー（4月7日）にあたり、WHOは、組織の創立日を記念した「Our planet, our health」キャンペーンの一環として、紛争と脆弱性が高まっているこの時期に、健康の維持・保護と気候危機の緩和に向けた指導者とすべての人々の行動を加速するよう緊急に呼びかけています。

テドロス事務局長は、「気候の危機は健康の危機です。地球を破壊している許されない行為の継続は、人々をも破壊しています。世界が化石燃料への依存から脱却し、ウエルビーイングに焦点を当てた経済と社会を再構築し、地球の健康に依存する人々の健康を守るために変革的な解決策が必要です」と述べています。

ジュネーブ・ウエルビーイング憲章は、地球の健康を破壊することなく、現在および将来の世代のために公平な健康と社会的成果を達成するために、どのような世界的コミットメントが必要であるかを明示しています。

WHOは「世界保健デー」キャンペーンを通じて、政府、組織、企業、市民に対し、地球と人類の健康を守るために行っている行動を共有するよう呼びかけています。

2022年4月12日

[WHO records 100th attack on health care in Ukraine](#)

A grim milestone has been crossed today in the war in Ukraine – more than 100 attacks on health care verified by WHO since the start of the war on 24 February. The attacks so far have claimed 73 lives and injured 51.

ウクライナ：医療への攻撃 100 件超

2月24日の戦争開始以来、WHOが検証した医療への攻撃は100件を超え、市民ら73人の命が奪われ、51人が負傷しました。合計103件の攻撃のうち、89件は医療施設に、13件は救急車を含む輸送機関に影響が波及するものでした。

テドロス事務局長は、「我々は、医療への攻撃が続いていることに憤りを感じている。医療への攻撃は国際人道法に違反するものだ」と述べ、ロシア連邦に改めて戦争の停止を求めました。

2022年4月12日

[Open to all, anytime, anywhere: Free online courses bring vaccine knowledge to the global community](#)

Empowering health workers, decision-makers and the public with trusted knowledge about immunization is critical to protecting people from vaccine-preventable diseases. Health professionals need this knowledge to safely and effectively administer vaccines, leaders rely on it to inform health policy, and individuals depend on it to make decisions about their own health and the health of their families.

That is why the World Health Organization has developed a suite of online courses addressing key vaccination topics on its free learning platform OpenWHO.org. Courses are available in national and local languages and can be taken at each learner's own pace, all at once or across several sittings, to enable access for as many people as possible.

OpenWHO.org に予防接種コース開設

WHOは、無料の学習プラットフォーム OpenWHO.org に、主要な予防接種のトピックを取り上

げた一連のオンラインコースを開発しました。コースは各国・地域の言語で提供され、できるだけ多くの人が利用できるよう、各自のペースで、一度に、または数回に分けて受講することができます。

「COVID-19 ワクチンコース」では、医療従事者のためのワクチン接種トレーニング、ワクチン摂取の国別進展度や接種計画に関するオリエンテーション、ワクチン導入・展開コスト計算 (CVIC) ツールの使い方などのコースがあります。

また、予防接種のトピックとして、ワクチン安全性の基礎、インフルエンザの予防と制御、アナフィラキシーなどのコースもあります。

2022年4月12日

[Strategic framework for collaboration on antimicrobial resistance](#)

Building on the momentum of increased collaboration, the WHO, FAO, OIE and UNEP have developed a Strategic Framework for collaboration on antimicrobial resistance (AMR). This Framework reflects the joint work of the four organizations to advance a One Health response to AMR at the global, regional and country level. It broadly supports the implementation of the five pillars of the Global Action Plan on AMR, as well as strengthening global AMR governance.

薬剤耐性に関する国際機関の戦略的枠組み

薬剤耐性 (AMR) 病原体の出現と蔓延を抑えることは、ヒト、動物、植物の疾病を治療する世界の能力を維持し、食の安全とセキュリティのリスクを軽減し、環境を保護し、貧困、飢餓、健康と福祉、不平等、清潔な水と衛生、労働と経済成長、持続的消費と生産、パートナーシップに関する目標を含む持続的開発目標への進捗を維持するために不可欠です。

WHO、FAO (国連食糧農業機関)、OIE (国際獣疫事務局)、UNEP (国連環境計画) は、薬剤耐性 (AMR) に関する連携のための戦略的枠組みを策定しました。

このフレームワークは、世界、地域、国レベルで AMR に対する「ワンヘルス (人と動物の健康、環境の健全性を一体的に守っていくという理念)」対応を進めるための 4 機関の共同作業を反映したものです。また、AMR に関するグローバル・アクション・プランの 5 つの柱の実施や、グローバルな AMR ガバナンス (必要な管理体制の構築) の強化を広く支援しています。

《グローバル・アクション・プランの 5 つの柱》

- 1) 普及啓発・教育：薬剤耐性に関する知識や理解を深め、専門職等への教育・研修を推進
- 2) 動向調査・監視：薬剤耐性及び抗微生物剤の使用量を継続的に監視し、薬剤耐性の変化や拡大の予兆を適確に把握
- 3) 感染予防・管理：適切な感染予防・管理の実践により、薬剤耐性微生物の拡大を阻止
- 4) 抗微生物剤の適正使用：医療、畜水産等の分野における抗微生物剤の適正な使用を推進
- 5) 研究開発・創薬：薬剤耐性の研究や、薬剤耐性微生物に対する予防・診断・治療手段を確

保するための研究開発を推進

2022年4月12日

[Conflict, climate crisis and COVID: world needs “Peace for Health and Health for Peace”](#)

To mark World Health Day on 7 April, the Director-General of the World Health Organization, Dr Tedros Adhanom Ghebreyesus, lays out a bold new initiative that highlights the need to promote peace and health in order to protect the planet and its people..

紛争、気候危機、COVID：世界は“健康のための平和、平和のための健康”を必要としている

4月7日の世界保健デーを記念して、テドロス事務局長は、地球と人々を守るために平和と健康を促進する必要性に着目し、大胆な新しい構想を打ち出しました。

(テドロス事務局長の発言要旨)

紛争の激化、気候情勢の悪化、パンデミックの長期化などが重なり、「終末時計」は午前0時100秒で止まっており、1947年の作成以来、世界が文明の終末に最も近づいた状態が続いています。

平和は、健康、開発、紛争、気候危機、COVID-19などの課題に取り組む私たちのすべての活動の基礎であることを認識し、私は本日、「健康のための平和、平和のための健康」という新しいグローバル・イニシアティブ（新規構想）を発表します。

このイニシアティブは、何よりもまず、健康と平和をめぐる新たな対話を促進することを目的としています。私は、他の国連機関、市民社会、スポーツ団体、学界、企業などに、このイニシアティブを支援するよう要請するつもりです。このイニシアティブは、最終的には、病気や死のリスクが最も高い人々を支援する平和構築活動全体の一部となるとを私は考えています。

紛争、気候危機やCOVID-19などは、食糧や燃料の価格、インフレの大幅な上昇を招き、多くの人々が健康に手が届かなくなる原因となっています。平和のための取り組みには、健康や教育と並んで、質の高い栄養価の高い食料へのアクセスを確保することも重要な要件となります。どのような危機であれ、WHOが常に最前線で命を救い、「すべての人のための健康」を目指して戦っていることを誇りに思います。

2022年4月12日

[Over two-thirds of Africans exposed to virus which causes COVID-19: WHO study](#)

Up to 65% of Africans have been infected by SARS-CoV-2, the virus which causes COVID-19, a World Health Organization (WHO) analysis finds. The study finds that true infections on the continent were 97 times larger than reported confirmed cases.

アフリカ人の 3 分の 2 以上が COVID-19 に感染 (WHO 調査)

アフリカ人の最大 65 % が COVID-19 に感染していることが、WHO の分析で明らかになり、大陸における真の感染者は、報告された確認症例の 97 倍であることが判明しました。 このことは、世界平均の真の感染者数が確定報告症例数の 16 倍であることと比較すると、統計的に有意な大差があることを示しています。

2022 年 4 月 6 日現在、アメリカ大陸では 1,150 万人の患者が確認され、252,000 人以上の死者が報告されています。 しかし、アフリカでは、糖尿病や高血圧などの慢性疾患など、重症化や死亡につながる危険因子を持つ人の割合が比較的少ないため、世界の他の地域と比較して COVID-19 の症例が軽症で済んでいます。

WHO は、各国がワクチン接種を拡大するための支援に取り組んでいます。 アフリカでは現在までに、人口の 16 % に当たる 2 億 900 万人がワクチン接種を完了し、8 億 1600 万回分のワクチンのうち 4 億 5700 万回分を投与しました。

2022 年 4 月 12 日

[New frontiers in vector control](#)

Several new innovations aim to close gaps in anti-malaria efforts by targeting the mosquitoes that spread the disease.

マラリア Vector control (媒介生物制御) の技術革新

マラリアを媒介する蚊をターゲットにすることで、マラリア対策におけるギャップを埋めようとするいくつかの新しい技術革新があります。

WHO の最新の世界マラリア報告書によると、2020 年にはマラリアの世界的な負担が増加し、推定死亡者数は 6 億 2700 万人、新規患者数は 2 億 4100 万人に上るとされています。

2030 年までにマラリアの発症率と死亡率を 90 % 削減するという WHO の目標を達成するために、研究者は以下のような革新的な技術に取り組んでいます。

- 1) 改良型蚊帳
- 2) 屋外用の有毒糖餌剤 Bait システム
- 3) 空間忌避剤
- 4) イベルメクチン投与
- 5) 遺伝子工学による蚊の DNA 無害化改造

WHO のベクター・コントロール・アドバイザリーグループ (VCAG : Vector Control Advisory Group) は、科学者や研究者からなる組織で、新しいツールやアプローチの有効性を独自に評価するために活動しています。

2022年4月13日

[WHO, Ghana and Norway agree to accelerate actions to save lives in first International Strategic Dialogue on Noncommunicable Diseases and the Sustainable Development Goals](#)

WHO welcomes the establishment of a new Heads of State and Government Group to accelerate progress towards the SDG target for noncommunicable diseases – a one-third reduction in “premature” deaths from diseases like diabetes, cancer, heart and lung disease and the promotion of mental health and well-being.

The decision was taken at the inaugural International Strategic Dialogue on Noncommunicable Diseases (NCDs) and the Sustainable Development Goals, held today in Accra, Ghana, where a new Global Compact on NCDs was launched. The dialogue was co-hosted by WHO, together with the Governments of Ghana and Norway.

非感染性疾患とSDGsに関する国際戦略対話：「NCDs グローバルコンパクト」発表

生活習慣病などの非感染性疾患 NCDs は予防や治療が可能であり、一人当たり年間わずか 0.84 米ドルで 2030 年までに 700 万人近くの命を救うことができます。また、2030 年までに世界中で 2,300 億米ドル以上の経済的・社会的利益を実現し、約 1,000 万人の心臓発作と脳卒中を回避することができます。

ガーナで開催された非感染性疾患と SDGs に関する国際戦略対話において、命を救うための行動を加速させることに合意し、NCDs に関する新しいグローバル・コンパクト（合意）を発表しました。

NCD コンパクトは以下の 5 つの分野に焦点を当てています。

1. 2030 年までに、費用対効果の高い対策を実施し、NCD による早期死亡から 5,000 万人の命を救うこと。
2. NCD を抱える 17 億人の人々が必要な医薬品やケアにアクセスできるようにすること。
3. プライマリーヘルスケアとユニバーサル・ヘルス・カバレッジの中に NCD を組み入れること。
4. 包括的な NCD のサーベイランスとモニタリングをおこなうこと。
5. NCDs や精神疾患を抱える 17 億人の人々が、政策立案やプログラム作成に有意義に参加できるようにすること。

2022年4月18日

[Statement on the eleventh meeting of the International Health Regulations \(2005\) Emergency Committee regarding the coronavirus disease \(COVID-19\) pandemic](#)

The eleventh meeting of the Emergency Committee convened by the WHO Director-General under the International Health Regulations (2005) (IHR) regarding the coronavirus disease (COVID-19) pandemic took place on Monday 11 April 2022 from 12:00 to 16:30 Geneva time (CEST).

COVID-19 パンデミックに関する国際保健規約 (IHR) 緊急委員会第 11 回会合の声明

国際保健規則 (IHR) (2005) による第 11 回緊急委員会が、2022 年 4 月 11 日に開催され、事務局長は、COVID-19 のパンデミックは引き続き PHEIC (国際的に懸念される公衆衛生上の緊急事態) に該当すると判断しました。

委員会では、SARS-CoV-2 亜種、抗ウイルス剤の使用と公平なアクセス、ワクチン保護と COVID-19 ワクチンの需要と供給におけるグローバルシフト、ハイブリッド免疫、SARS-CoV-2 の感染に関する将来の潜在シナリオと同時に発生する健康危機による課題、加盟国の COVID-19 パンデミックへの対応などの主要問題について討議されました。

また、締約国への一時的な勧告として、「2022 年 WHO 戦略的準備・対応計画 (SPRP)」に示された優先事項と潜在的シナリオに沿って国の準備・対応計画を進めることなど 11 項目が示されました

2022 年 4 月 18 日

[Health system performance assessment](#)

Health policy-making and reform require, first and foremost, a sound understanding of how a health system is performing. To assist countries in this process, the Health Systems Performance Assessment Framework for Universal Health Coverage offers a comprehensive attempt at guiding the collection and analysis of health system data in relation to policy goals and 21st century challenges.

医療システムのパフォーマンス評価

医療政策の立案と改革には、何よりもまず、医療制度がどのように機能しているかを正しく理解することが必要です。

このプロセスにより各国を支援するため、「ユニバーサル・ヘルス・カバレッジのための保健システム・パフォーマンス評価フレームワーク」は、政策目標や 21 世紀の課題に関連する包括的な保健システムデータの収集と分析の行程を提供しています。

したがって、本書では、各医療システム機能 (すなわち、医療システムガバナンス、資金調達、リソース生成、およびサービス提供) について、それらの目的、その目的を達成するために必要な政策、およびそれら政策がどれだけうまく機能しているかを評価するための評価領域 (対象) を概説し、実行に導きます。

2022年4月18日

[The Global Diabetes Compact: a promising first year](#)

One year ago today, WHO, together with the Government of Canada, launched the [Global Diabetes Compact](#) – an ambitious new initiative to galvanize efforts around the world to both reduce the risk of diabetes, and ensure that all people diagnosed with diabetes have access to equitable, comprehensive, affordable and quality treatment and care.

グローバル糖尿病コンパクト：初年度の成果

1年前の4月14日、WHOはカナダ政府とともに、グローバル糖尿病コンパクト（行動規範、具体案）を立ち上げました。これは、糖尿病のリスクを低減し、糖尿病と診断されたすべての人々が公平で包括的、かつ安価で質の高い治療とケアを受けられるよう、世界中の努力を結集する意欲的な新しいイニシアティブ（主導、先議）です。

昨年5月の世界保健総会で、加盟国が糖尿病に関する歴史的な決議を採択したことにより、糖尿病の予防と治療に対する取り組みの拡大が極めて重要であることが明らかになりました。この決議は、「糖尿病の予防と治療をプライマリーヘルスサービスに統合すること、インスリンへのアクセスを大幅に向上させるための道筋を開発すること、糖尿病の医薬品と技術に関する規制要件の収束と調和を促進すること、糖尿病のモニタリングとサーベイランスを改善すること」を勧告しています。

11月の世界糖尿病デーに先立ち、WHOが発表した新しい報告書は、インスリンと糖尿病治療への世界的なアクセスの驚くべき現状に焦点を当て、「高価格、ヒト型インスリンの入手難、インスリン市場を支配する少数の生産者、弱い保健制度」が普遍的アクセスを阻む主な要因であることを明らかにしました。

WHOは、この1年目の成果を基に、世界中のパートナーとともに、糖尿病の方々の生活に真の変化をもたらすことを楽しみにしています

2022年4月19日

[INSPIRE: seven strategies for ending violence against children: uptake between 2016 and 2021](#)

INSPIRE：子どもへの暴力をなくすための7つの戦略：2016年から2021年の取り組み状況

本報告書は、世界保健機関の『INSPIRE：7 strategies for ending violence against children 子どもに対する暴力撤廃のための7つの戦略』テクニカルパッケージの2016年の発表から5年間の各国の取り組み状況を記録したものです。

INSPIRE*のフレームワークは、子どもに対するあらゆる暴力をなくすことを求めたSDGs目標16.2の達成に不可欠なツールであり、貧困、健康、教育、男女平等、安全な環境、正義を対象とした目標1、3、4、5、10、11、16などの達成にも役立つものです。

*（備考）INSPIREは、7つの戦略の頭文字をとったものです。

I は法律の施行 implementation and enforcement of laws、
N は規範と価値観 norms and values、
S は安全な環境 safe environments、
P は親と介護者の支援 parent and caregiver support、
I は所得と経済の強化 income and economic strengthening、
R は対応と支援サービス response and support service、
E は教育とライフスキル education and life skills、
の略称です。

2022年4月19日

[Ethics and medical radiological imaging: a policy brief for health-care providers](#)

Ethics is an essential component of radiation protection in medicine, but this has not always been recognized by the various stakeholders involved. Medical imaging is universally accepted as an essential tool in health care. Yet, unlike most of medicine, its patient safety practices draw on the system of radiation protection, as opposed to that provided by medical ethics.

倫理と医療用放射線画像：医療従事者のためのポリシーブリーフ

倫理は、医療における放射線防護において最も本質的な要素です。しかし、そのことは関係する様々な利害関係者に必ずしも認識されていないのが現状です。

医療画像は、医療に不可欠なツールとして普遍的に受け入れられていますが、ほとんどの医療・医薬とは異なり、その患者の安全のための実践は医療倫理が提供するものとは対照的で、むしろ労働者や公衆の安全を確保するために開発された放射線防護のシステムを中心に組み立てられています。

本報告書では、WHO や国際原子力機関 (IAEA)、国際放射線防護委員会 (ICRP) などの国際機関が期待する「患者放射線防護」を実現するために、既存の枠組みを基にした様々な取り組みを提案しています。

この提案の枠組みは、国際保健倫理、患者の安全、ユニバーサル・ヘルス・カバレッジ、放射線安全に関するイニシアチブと整合するよう意図されています。倫理を、医療放射線防護の枠組みの他の構成要素と総合的に統合し、患者を中心とした医療の提供と安全に対する現在の一般的なアプローチを推し進め、医用画像診断などにおける本質的な文化的変化を促進するものです。

2022年4月19日

[WHO QualityRights e-training on mental health](#)

WHO's QualityRights initiative aims to improve the quality of care in mental health and related services and to promote the rights of people with psychosocial, intellectual and cognitive disabilities.

WHO QualityRights : メンタルヘルスに関する e - トレーニング

WHO の QualityRights イニシアチブは、メンタルヘルスとその関連サービスにおけるケアの質を向上させ、心理・知的・認知的障害を持つ人々の権利を促進することを目的としています。関連する QualityRights の e-トレーニングは 11 ヶ国語で提供されており、自分自身のメンタルヘルスケア、友人、家族、同僚のメンタルヘルスサポート、メンタルヘルスサービスにおけるステイグマ (汚名や烙印)、差別、虐待、強要への取り組みに加え、「メンタルヘルスサービスの、人を中心とした権利に基づいた回復アプローチへの転換」を支援するための行動などを取り上げています。

このトレーニングは、メンタルヘルスケアの提供に関する意思決定に関わる人々、メンタルヘルスケアや心理社会的支援を提供する人々、メンタルヘルスに関する支援を過去に受けていた人々、または現在受けている人々など、幅広いグループを対象として開発されました。

2022 年 4 月 21 日

[Delivering on the G20 Leaders commitment to build an equitable and effective Financial Intermediary Fund \(FIF\) for Pandemic Preparedness and Response \(PPR\)](#)

As G20 Heads of Government and Finance Ministers have said recently, health financing is a long-term investment, not an expenditure.

To address the complex and sustained challenges of pandemic preparedness and response (PPR), donors should commit to a multiannual program of funding, at least for an initial five-year period.

Multi-year funding will enable the Financial Intermediary Fund (FIF) to focus on building core areas of programming, without constantly worrying about replenishment, particularly as it gets off the ground.

Donor countries, with no multi-year budgetary mechanisms, should commit long-term contribution schemes through other existing legal frameworks.

G20 首脳の公約実現に向けた公平で効果的な金融仲介基金 (FIF) の構築 : パンデミックへの備えと対応 (PPR) のために

WHO の「万人のための健康の経済学評議会 Council on the Economics of Health for All」および G20 「健康開発パートナーシップ」は、G20 首脳、財務相、保健相に対していかのような提言を行いました。

1) 持続可能性、革新性、多年次資金調達

健医療財政は支出ではなく、長期的な投資であり、パンデミックへの備えと対応 (PPR : Pandemic Preparedness and Response) という複雑かつ持続的な課題に取り組むために、ドナー側は少なくとも最初の 5 年間は、複数年にわたる資金提供プログラムに合意する必要があります。

複数年の資金提供により、金融仲介基金（FIF：Financial Intermediary Fund）がうまく軌道に乗れば、常に補充を心配することなく、プログラムの中核分野の構築に集中することができるようになります。

2) 充足度と規模

WHO と世界銀行は、（必要となる資金と）PPR の資金調達に年間 105 億ドルのギャップ（隔たり）があると見積もっており、FIF には、最低でも年間予算 105 億ドル、最初の 5 年間で合計 500 億ドルの先行多年間資金を達成するよう設定されるべきです。

3) 相補性、付加性、効果的な評価

FIF は、新たな投資資金の効率的かつ効果的な支出を保証する、効果的な評価メカニズムを持たなければなりません。

4) 包括性と普遍性

FIF の正式な統治機構には、高、中、低所得国に均等な代表が与えられるべきであり、WHO やアフリカ CDC のような世界や地域の中核的実施機関や、多様な国々からの独立した市民社会の専門家が含まれるべきです。

5) 透明性と説明責任

FIF は、意思決定機関、ドナー、受益者、運営組織、技術関係者が必ず実行しなければならない「説明責任原則を確率すべきです。

2022 年 4 月 21 日

[WHO Director-General's opening remarks at the ground-breaking ceremony for the WHO Global Centre for Traditional Medicine – 19 April 2022](#)

I'm grateful to Prime Minister Modi and to the Government of India for their leadership in supporting this important initiative, and the investment of US\$ 250 million to establish the Centre with an interim office, new location and building, and a 10-year commitment for operating costs.

インドで WHO 伝統医学グローバルセンター起工

4 月 19 日、インドのグジャラート州で世界初の伝統医学グローバルセンターの起工式が行われ、テドロス事務局長は以下の挨拶を行いました。

1) インド政府から 2 億 5 千万ドルが投資されたことに感謝する

2) センターの主な活動分野は以下の 5 つ

- リーダーシップとパートナーシップ
- エビデンスと学習
- データと分析
- 生物多様性、社会文化的資源、知的財産などの持続可能性と公平性
- イノベーションとテクノロジー

3) 今後に向けた 4 つの優先事項

- 世界中の政府、学者、実務家が WHO 伝統医学グローバルセンターに参加し、自国の知識や研究を共有することで、全世界のために役立てること
- 伝統医学や補完医学に関連する医療制度を開放し、人々が最も受け入れやすく、利用しやすい方法で、健康とウェルビーイングのためのサービスを受けることができるようにすること
- 持続可能で環境に配慮した公平な方法で伝統的医薬品を開発すること
- 伝統的な医薬品を育んできたコミュニティが、知的財産の成果を共有することを含め、その開発から利益を得られるようにすること

以上がテドロス事務象徴挨拶の骨子です。

2022 年 4 月 21 日

[New guidelines from WHO recommend a simpler, safer treatment for cryptococcal disease in people living with HIV](#)

Cryptococcal disease is one of the most important opportunistic infections among people living with advanced HIV disease and is a major contributor to illness, disability and mortality, particularly in sub-Saharan Africa.

New guidelines developed by WHO strongly recommend a single high dose of liposomal amphotericin B as part of the preferred induction regimen for the treatment of cryptococcal meningitis in people living with HIV.

WHO の新ガイドライン (公表予告) : HIV 感染者におけるクリプトコックス症の治療をより簡便で安全なものに

クリプトコックス症 * は、進行した HIV 感染者における最も重要な日和見感染の 1 つであり、特にサハラ以南のアフリカにおいて、疾病、障害、死亡の大きな要因となっています。

WHO が作成した新しいガイドラインでは、HIV 感染者におけるクリプトコックス髄膜炎の治療において、望ましい導入療法の一部として、リポソーマル・アムホテリシン B の高用量単回投与を強く推奨しています。

「2022 年クリプトコックス病の診断、予防、管理のためのガイドライン」は、今後数週間以内にオンラインで公開予定です。

* クリプトコックス症は、クリプトコックス属真菌による感染症であり、日本国内でも健常者における侵襲性真菌感染症として最も頻度が高い。クリプトコックス属真菌は主に肺や皮膚から感染して病巣を形成する。肺クリプトコックス症が多いが、播種性感染症を起こすことがある。特に中枢神経系に播種して、脳髄膜炎を起こすことが多い。腎疾患、膠原病、悪性腫瘍、糖尿病やステロイド投与などがクリプトコックス症のリスク因子であり、ヒト免疫不全症候群ウイルス (HIV) 感染はクリプトコックス脳髄膜炎のハイリスクとなる (国立感染症研究所 HP より)

2022年4月21日

World Immunization Week 2022

World Immunization Week, celebrated in the last week of April, aims to highlight the collective action needed and to promote the use of vaccines to protect people of all ages against disease. WHO works with countries across the globe to raise awareness of the value of vaccines and immunization and ensures that governments obtain the necessary guidance and technical support to implement high-quality immunization programmes. The ultimate goal of World Immunization Week is for more people – and their communities – to be protected from vaccine-preventable diseases.

2022年世界予防接種週間 : Long Life for All

4月24日から30日にかけて開催される世界予防接種週間の2022年のテーマ「Long Life for All」は、『ワクチンのおかげで夢を追いかけ、愛する人を守り、健康で長生きすることが可能になる』という考えのもと、人々の心をひとつにすることを目的としています。

WHOは世界各国と協力し、ワクチンと予防接種の価値に対する認識を高め、各国政府が質の高い予防接種プログラムを実施するために必要なガイダンスと技術的支援を得られるよう取り組んでいます。

世界予防接種週間の最終目標は、より多くの人々、そしてそのコミュニティが、ワクチンで予防可能な病気から守られることです。世界予防接種週間は、WHOをはじめ、Gavi-ワクチンアライアンス、ユニセフ、ビル & メリンダ・ゲイツ財団など、さまざまなパートナーによって支えられています。

* Gavi-ワクチンアライアンスに関しては、以下の国立感染症研究所HPをご覧ください。

<https://www.niid.go.jp/niid/ja/vaccine-j/1685-idsc/iasr-out/7146-445f01.html>

2022年4月21日

World Malaria Day 2022

World Malaria Day 2022 will be marked under the theme “Harness innovation to reduce the malaria disease burden and save lives.” No single tool that is available today will solve the problem of malaria. WHO is calling for investments and innovation that bring new vector control approaches, diagnostics, antimalarial medicines and other tools to speed the pace of progress against malaria.

世界マラリアデー

4月25日は世界マラリアデーです。

マラリアは予防と治療が可能な病気ですが、世界中の人々の健康と暮らしに壊滅的な影響を与え続けています。2020年には、85カ国で新たに2億4100万人のマラリア患者が発生し、62万7000人のマラリア関連死が発生したと推定されています。死亡者の3分の2以上は、WHOアフリカ地域に住む5歳未満の子どもたちでした。

2022年の世界マラリアデーは、“Harness innovation to reduce the malaria disease burden

and save lives (マラリアの疾病負担を軽減し、命を救うためにイノベーションを活用する：日本 WHO 協会訳) “をテーマに開催されます。

現在利用可能な単一のツールでは、マラリアの問題を解決することはできません。WHO は、マラリア対策の進展ペースを速めるため、「新たな媒介生物対策アプローチ、診断法、抗マラリア薬、その他のツール」を誘起する投資とイノベーション（技術革新）を呼びかけています。

*低・中所得国を中心に蔓延し、毎年 250 万人以上もの命を奪っている HIV / エイズ、結核、マラリアを世界三大感染症という。このうちマラリア感染はこれらの中で最も多い年間罹患者数 約 2 億 2,500 万人、年間死亡者数 約 80 万人であり、最も重視しなければならない感染症である。

2022 年 4 月 26 日

[WHO recommends highly successful COVID-19 therapy and calls for wide geographical distribution and transparency from originator](#)

Today, WHO made a strong recommendation for nirmatrelvir and ritonavir, sold under the name Paxlovid, for mild and moderate COVID-19 patients at highest risk of hospital admission, calling it the best therapeutic choice for high-risk patients to date. However, availability, lack of price transparency in bilateral deals made by the producer, and the need for prompt and accurate testing before administering it, are turning this life-saving medicine into a major challenge for low- and middle-income countries.

ファイザーの経口抗ウイルス剤「パキロビット」を、軽症患者らのうち、重症化しやすいワクチン未接種者・高齢者・免疫不全患者らに強く推奨

WHO は、入院リスクが最も高い軽度および中等度の COVID-19 患者に対して、Paxlovid の名称で販売されている nirmatrelvir と ritonavir を、ハイリスク患者に対する最良の治療選択肢であるとし、強く推奨するとの見解を出しました。

WHO はファイザーに「価格設定と取引の透明性を高め、医薬品パテントプール(MPP)とのライセンスの地理的範囲を拡大し、より多くの後発医薬品メーカーがこの薬を製造し、手頃な価格でより早く入手できるようにすること」を強く要請しています。

また、これまで WHO は、もう一つの抗ウイルス薬であるレムデシビルについて、重症度にかかわらずすべての COVID-19 患者に使用しないことを推奨していましたが、WHO は、今回、臨床試験の新しいデータが発表されたことを受けその勧告を更新し、現在では「入院のリスクが高い軽度または中等度の COVID-19 患者にレムデシビルを使用することを推奨」しています。

なお、重症または重篤な COVID-19 患者に対するレムデシビルの使用の推奨は、現在検討中です。

2022年4月26日

[Over 1 million African children protected by first malaria vaccine](#)

As World Malaria Day approaches, more than 1 million children in Ghana, Kenya and Malawi have received one or more doses of the world's first malaria vaccine, thanks to a pilot programme coordinated by WHO. The malaria vaccine pilots, first launched by the Government of Malawi in April 2019, have shown that the RTS,S/AS01 (RTS,S) vaccine is safe and feasible to deliver, and that it substantially reduces deadly severe malaria.

100 万人以上のアフリカの子どもたちを初のマラリアワクチンで保護

WHO のパイロットプログラムにより、ガーナ、ケニア、マラウイで 100 万人以上の子どもたちが世界初のマラリアワクチンの投与を 1 回以上受けています。

2019年4月にマラウイ政府が最初に開始したマラリアワクチンのパイロットプログラムは、RTS,S / AS01 (RTS,S) ワクチン (RTS,S は、英国のグラクソ・スミスクライン株式会社が開発したマラリアワクチンであり、世界的に最も致死率が高いサブサハラアフリカで流行している熱帯熱マラリア原虫の感染防御に一定の効果があるものです。) が安全で提供可能であり、致命的な重症マラリアを大幅に減らすことができることを示しました。

これらの知見は、2021年10月、マラリアの感染が中程度から高い環境に住む子どもたちの中で RTS,S の使用を拡大するよう WHO が勧告する歴史的な道筋を作りました。WHO は、このワクチンが広く普及すれば、毎年さらに 4 万人から 8 万人のアフリカの子どもたちの命を救うことができると推定しています。

ワクチンアライアンスの Gavi から、サハラ以南のアフリカの Gavi 適格国に対するマラリアワクチンの導入、調達、配送を支援するために、1 億 5500 万米ドル以上が確保されています。マラリアによる子どもの病気と死亡を減らすための新たな手段として RTS,S を採用するかどうか、またどのように採用するかを検討する国に対して、WHO のガイダンスが提供されています。

テドロス事務局長は、「このワクチンは、単なる科学的なブレイクスルーではなく、アフリカ全土の家族の人生を変えるものです。このワクチンは、科学とイノベーションが健康にもたらす力を実証するものです。命を救い、マラリアのない世界に向けた前進を促すために、より多くの優れた手段を開発することが急務です」と述べています。

2022年4月26日

[Toolkit for developing a multisectoral action plan for noncommunicable diseases: overview](#)

This toolkit is a "how to" guide for developing, implementing and evaluating a multisectoral

action plan for prevention and control of NCDs. It is targeted at policy-makers, planners and programme managers, and is intended to help countries, provinces and cities meet the requirements for achieving global and national NCD targets and the Sustainable Development Goals. The toolkit takes the user through a series of actions related to the development of a multisectoral action plan ("MSAP development actions"), and provides forms and a template framework for users to complete as they undertake these actions.

非感染性疾患のための多部門行動計画策定のためのツールキット：概要

本ツールキットは、非感染性疾患（NCD）の予防と制御に関する多部門にわたる行動計画を策定、実施、評価するための「ハウツー」ガイドです。

政策立案者、プランナー、プログラムマネージャーを対象とし、国や地方、都市が世界や国の NCD 目標、持続可能な開発目標を達成するために必要な条件を満たすことを目的としています。本ツールキットは、多部門活動計画の策定に関する一連の行動（「MSAP 策定行動」）を通じて、ユーザーがこれらの行動に取り組む際に必要な書式やテンプレートフレームワークを提供するものです。

多部門にまたがるアクションプランの策定には、健康上のニーズの確立と関連するステークホルダーの参加に始まり、取るべき行動の決定、介入策の特定と優先順位付け、予防と管理のための支援と資源の確立を行いながら NCD に取り組む方法の決定、プラン実施の進捗状況の評価などが含まれます。

内容（モジュール）は以下の通り。

1. 包括的なアセスメントの実施
2. ステークホルダーの参画とガバナンスの仕組みの確立
3. 行動の枠組みの確立
4. 実施計画の策定
5. 多部門にわたる行動計画の実施評価

2022 年 4 月 26 日

[WHO announces winners of inaugural Western Pacific Innovation Challenge](#)

More than 400 public health innovators submitted entries for the first World Health Organization (WHO) Western Pacific [Innovation Challenge: Innovation for the Future of Public Health](#). The Innovation Challenge aimed to identify solutions to better the health and well-being of people in the Region which includes 37 countries and areas across Asia and the Pacific.

WHO：「西太平洋イノベーションチャレンジ」の受賞者を発表

第 1 回『WHO 西太平洋イノベーションチャレンジ：公衆衛生の未来のためのイノベーション』に、400 人以上の公衆衛生イノベーターが応募しました。イノベーション・チャレンジは、アジア太平洋地域の 37 の国と地域を含むこの地域の人々の健康と福祉を向上させるためのソリューションを特定することを目的としています。4月28日～29日に開催される「Scaling for Impact」で詳細が紹介されます。

これにはイノベーション・チャレンジ受賞者を含むスピーカーが、ヘルスケア政策、子宮頸がんの予防と治療、デジタル技術、脆弱な人々への医療資源などにおいてイノベーションを起こす方法について議論します。

ここで、受賞団体は、2022年西太平洋イノベーションフォーラムでそのソリューションを紹介する予定です。

今回のイノベーション・チャレンジの受賞団体として、29 団体が選出されています。受賞したソリューションは、電気を必要としない水ポンプ、脳卒中をスクリーニングするアプリ、COVID-19 緊急チャットボットなどです。日本からは、カーブジェン株式会社 (CarbGeM Inc.) とケイスリー株式会社 (K-three Inc.) の 2 社が受賞しました。

(訳者注) 受賞した日本企業の概要は下記の通りです。

- ※ CarbGeM Inc. . . . 薬剤耐性への取組み (AI ベースのスマートフォンアプリケーション BiTTE)
- ※ K-three Inc. . . . ワクチンの躊躇を減らすためのデジタルナッジ (行動科学と機械学習を活用したハイパーパーソナライズされたメッセージングエージェント)

2022 年 4 月 26 日

[Integrated care for older people: WHO launches new report of findings from the ICOPE implementation pilot programme](#)

Rapid population ageing requires a transformation of health and social care systems to enable the delivery of integrated and person-centred care that responds to older people's health and care needs, goals, and preferences.

To support this transformation, WHO developed the integrated care for older people ([ICOPE](#)) approach and a three-phase implementation pilot programme with the aim of supporting Member States to adapt to the provision of integrated care.

Today, WHO launches a [report](#) detailing the findings of the first 'ready' phase of this pilot programme. This phase aimed to evaluate readiness and feasibility to implement the ICOPE approach. The report summarizes the findings from the implementation experiences across nominated Member States, including enablers, barriers, and strengths for the implementation of the ICOPE approach, and learning on the preparation and adaptation needed to implement ICOPE.

高齢者のための統合ケア：新しい報告書を発表

急速な人口の高齢化は、統合的で人を中心としたケアの提供を可能にするための、医療・社会ケアシステムの変革を求めています。

WHOはこの変革を支援するために、加盟国が統合ケアの提供に適応できるように支援することを目的として、高齢者のための統合ケア (ICOPE) アプローチと 3 段階の実施パイロットプログラムを開発しましたが、このパイロットプログラムの最初の「準備段階」の結果を詳述した報告書を発表しました。

この報告書は、ICOPE アプローチの実施の実現要因、障壁、強み、準備と適応に関する学習など、指定された加盟国全体での実施経験から得られた知見をまとめたものです。

ICOPE の実施が成功すれば、世界中の高齢者にとってより明るい未来が期待できます」と、母子・新生児・思春期保健・高齢化担当ディレクターの Anshu Banerjee 博士は語っています。

(備考) [高齢者のための統合ケア \(ICOPE : integrated care for older people\) ; 高齢者の内在的能力の低下を管理するための地域レベルでの介入ガイドライン\(WHO の Web サイト \(日本語\)\)](#)

2022 年 4 月 26 日

[WASH FIT: A practical guide for improving quality of care through water, sanitation and hygiene in health care facilities. Second edition](#)

WASH FIT is a risk-based, quality improvement tool for health care facilities, covering key aspects of WASH services: water; sanitation; hand hygiene; environmental cleaning; health care waste management; and selected aspects of energy, building and facility management. The first edition of WASH FIT was published in 2018 and as of 2022 is in use in over 40 countries. This second edition responds to member state and user requests for more guidance and information on incorporating climate and environment and gender and equity considerations throughout each of the 5 WASH FIT steps as well as a greater focus on sustainable, implementation and engagement with health actors.

WASH FIT : 医療施設における水と衛生設備を通じてケアの質を向上させるための実践ガイド (第 2 版)

WASH FIT はリスクベースに基づいた、医療施設のための品質改善ツールで、水、衛生設備、手指衛生、環境洗浄、医療廃棄物管理、エネルギー、建物、施設管理など、WASH サービスの主要な側面を対象としています。第 1 版は 2018 年に発行され、2022 年現在、40 カ国以上で使用されています。

この第 2 版は、WASH FIT の 5 つの各ステップを通じて気候や環境、ジェンダーや公平性への配慮を取り入れるためのガイダンスや情報、また持続可能性や実施、保健医療関係者との関わりについて強く焦点を当て、加盟国やユーザーの要望に応えたものです。第 2 版には、ファクトシート、チェックリスト、最新の評価、WASH FIT の国別採用・使用例も含まれており、包括的なトレーニングマニュアルとトレーニングスライドが付属しています。

(備考) WASH FIT : Water And Sanitation for health – Facility Improvement Tool (保健施設のための水と衛生設備の改善ツール)

2022年4月27日

[The ACT-Accelerator: Two years of impact](#)

The two-year impact report for the Access to COVID-19 Tools (ACT) Accelerator details impact, case studies and timelines of key milestones for the Diagnostics, Therapeutics and Vaccines pillars, as well as the Health Systems and Response Connector.

ACT アクセラレーター：2年間のインパクトレポート

ACT アクセラレーターの2年間の成果レポートでは、診断のための主要なマイルストーンの時系列、効果、事例研究、治療とワクチンの柱と同様の医療システムその反応を繋げることなど、詳しく説明しています。

このパートナーシップの成果には、40カ国でのCOVID-19ワクチン接種キャンペーンの開始、COVAXによる145カ国への14億回以上のワクチン投与、オミクロン変異株を最初に検出した南部アフリカでの配列決定能力の構築、120以上の低・中所得国における酸素吸入アクセス向上のため、世界最大の酸素供給業者との前例のない取引の交渉などが含まれます。

また、本報告書は、緊急の資金不足を解消するためのパートナーシップの推進、希少なツールへのアクセス確保、各国におけるデリバリーと取り込みの拡大、将来のグローバルな健康安全保障アーキテクチャに関する審議への情報提供に焦点を当て、その先を展望しています。

この報告書は、パンデミックの急性期を終わらせるために各国が連帯して行動する必要性を強調し、その実現に向けたACT-Acceleratorの重要な活動に焦点をあてています。

2022年4月27日

[Donors making a difference: Funding a range of lifesaving immunizations for people of all ages](#)

Contributions from donors are allowing WHO to help countries acquire and deliver vaccines to protect their populations from polio, cervical cancer, malaria, cholera, measles, COVID-19, typhoid and other dangerous but preventable diseases.

To mark World Immunization Week, we offer stories about the piloting of the world's first malaria vaccine, campaigns to immunize populations against polio, cervical cancer and hepatitis B, and about [ECHO-funded projects](#) to help African countries catch up on COVID-19 vaccinations.

寄付者がもたらす変化：あらゆる世代の人々の命を救うさまざまな予防接種に資金を提供

WHOは、世界中の基金や政府からの寄付により、ポリオ、子宮頸がん、マラリア、コレラ、はしか、COVID-19、腸チフス、その他「危険だが予防できる病気」から人々を守るためのワクチン入手と配布を支援しています。

「世界予防接種週間」を記念して、世界初のマラリア・ワクチンの試験運用、ポリオ、子宮頸がん、B型肝炎の予防接種キャンペーン、アフリカ諸国のCOVID-19ワクチン接種の遅れを取り戻

すための ECHO 資金によるプロジェクトについての記事を紹介します。

《紹介事例》

- ・ マラウイから世界初のマラリアワクチン試験運用に参加
- ・ ジブチ、ポリオ予防接種キャンペーンの第 2 弾を開始
- ・ ネパール、全国の定期予防接種に腸チフスワクチンを導入
- ・ 子宮頸がんとの闘いに朗報（単回接種）
- ・ ECHO(欧州委員会人道援助・市民保護総局)の資金援助により、アフリカ諸国が COVID-19 のワクチン接種に追いつくことを目指す
- ・ セネガルで新生児にワクチンを接種し、静かな B 型肝炎の流行に終止符を打つ

注) 本サマリーは、WHO 発信情報のインデックスとして役立てて頂くよう 標題及び冒頭部分を仮訳しているものですので、詳細内容については、WHO ニュースリリース、声明及びメディア向けノートの原文をこちらからご確認下さい。

<https://www.who.int/news-room/releases>

<https://www.who.int/news-room/statements>

<https://www.who.int/news-room/notes>